

お願い金魚 商品化次々

柳井の文具店や福祉作業所

金魚ちょうちん風の折り紙「お願い金魚」が柳井市内で次々と商品化されている。金魚ちょうちんより手軽で、願い事を書き込める点を受けているようだ。

「お願い金魚」は市内でアトリエK i B iを主宰する檜垣圭子さんが、折り紙の魚をアレンジしたもの。「金魚は縁起が良い。願い事を書けば叶うかも」と昨夏、「やない自遊倶楽部」の仲間と約500匹を折って商店に置いたところ、地元の人や観光客に好評だった。「折り方を知りたい」という声も相次いだ。

このため文具店「木阪賞文堂」(0820・22・0150)は今春、折り方説明書と赤い折り紙、見本1匹をセットにして売り出した。折り紙が20枚なら315円、50枚なら525円。すでに200セット以上売れたという。

「色もきれいだし、『願いが叶うかも』というのが受けている」と木阪泰之社長(49)。

市内の福祉作業所「工房しらかべ」(0820・22・3989)は、通所者が1匹ずつ折ったものを4月から売り始めた。2匹セットで100円。「金魚ちょうちんは値が張るけど、これなら気軽に買ってもらえる。金運を呼ぶ西の方角につるせば、運勢がアップするかもしれません」と生活支援員の小田和子さん(53)はPRする。

どちらも檜垣さんが折り方を教えたり助言したりした。「あったかいお土産になれば」と檜垣さんは話している。

(渡辺純子)

折り紙好評「お土産になれば」



福祉作業所で手作りされている「お願い金魚」＝柳井市柳井

アマモ場よみがえれ

柳井 中学生、干潟に苗5000本

魚が卵を産んだり育ったりするアマモ場を復活させよう、柳井市伊保主の干潟で、中学生ら約5000本の苗を植える。海草のアマモの再生に力を入れている。昨年までは干潟で採ったアマモの苗を、この干潟で植える。昨年までは干潟で採ったアマモの苗を、この干潟で植える。

採った種から青壮年部が育てた苗を、この干潟に植えることにした。

青壮年部が用意した苗は約5千本。生徒たちは体育館で根元に重りの紙粘土を巻き付け、潮の引いた干潟へ、田植のように横一列に植える。苗は「お願い金魚」のイラストが描かれた紙粘土で巻かれた。苗は「お願い金魚」のイラストが描かれた紙粘土で巻かれた。

年の松宮大樹君(13)は「いろんな生き物がいて楽しかった。海がきれいになるといい」と話した。青壮年部の酒井章部長は「アマモの活動を通じて海に少しでも近づいてほしい」と話した。



「ほしらんど くだまつ」中央公民館がオープン

下松中央公民館の開館式が8日、下松市大手町2丁目の市民交流拠点施設「ほしらんど くだまつ」で開かれ、市民が新しい施設を見学した。

3月に完成した市民交流拠点施設には、中央公民館と図書館が入り、今後公民館講座や市民活動の拠点となる。施設の天井の一部はガラス張りであり、自然光を取り入れる開放的な構造で、1階にはカフェもオープンした。新しい図書館のオープンは7月の予定。



開館式で、藤は「未永く生涯づくり、交流の場としていただき唱の練習に使う(85)は「立派な習は楽しいという」

稚アユピと放流の園田

周南

市民にアユ釣でもらったり川もらったりする周南市の夜市川稚アユ計約1万羽が放流された。同市上河川敷では、近稚園と菊川保育76人がバケツにを川に放流。園田「アユは元気だ。勢いよく泳ぐ。手を振っていた」